

講義名	経済学入門（1年生のみ）		
科目区分	専門基礎		
担当教員	岡島 慶知		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限	授業形態	
	2020年度 経済学部 経済情報学科 / 2020年度 経済学部 経済学科 / 2019年度 経済学部 経済情報学科 情報システムコース / 2019年度 経済学部 経済情報学科 経済情報コース / 2019年度 経済学部 経済情報学科 / 2019年度 経済学部 経済学科 地域まちづくりコース /		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>資金や物価（インフレーションやデフレーション）の問題、あるいは為替レートの話題など、日々の新聞やニュースで経済問題が論じられない日はありません。このような経済問題を理解する道具としての経済学の基礎を学びます。具体的には、現在の経済理論における大きな柱であるミクロ経済学とマクロ経済学を取り上げて、その基本部分を講義します。ミクロ経済学では、われわれの経済活動を支えている市場の役割と限界を勉強します。またマクロ経済学では、経済活動の規模を測る指標であるGDPや経済成長について触れます。経済理論は一見すると難しいと感じると思いますが、できるかぎり現実の具体的な事例についても説明します。</p>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・経済学の方法論や考え方を身につける。 ・現実の経済問題を理論的に捉えることができるようになる。

提出課題
<p>予習復習サイトにアクセスして解答してもらいます（ケータイからのアクセス可）。</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>講義中に口頭で行う</p>

評価の基準
<p>レスポンスの入力、別途用意する授業用サイトへのアクセスを総合して評価する。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>マナーを守り態度ある態度で受講すること。レスポンスを使用するのでスマホを持参すること。ない場合は教務部でレンタルすること。</p>

教科書
<p>・マンキュー入門経済学第3版。 N・グレゴリー・マンキュー著 / 足立 英 東洋経済新報社; 3200 978449231521 之訳 第3版 7</p> <p>・教科書は、授業の理解15点、予習30点のために必要です。</p>

プリント資料及び参考文献

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 経済学の十大原理 2. 第2章 経済学者らしく考える、第3章 相互依存と交易（貿易）からの利益 3. 第4章 市場における需要と供給の作用 4. 第4章 市場における需要と供給の作用 5. 第5章 需要、供給、および政府の政策 6. 第5章 需要、供給、および政府の政策 7. 第5章 付論 弾力性、第7章外部性 8. 中間テスト+復習 9. 第6章 消費者、生産者、市場の効率性 10. 第6章 消費者、生産者、市場の効率性 11. 第8章 国民所得の測定、第9章 生計費の測定 12. 第10章 生産と成長 13. 第10章 生産と成長 14. 第11章 貯蓄、投資と金融システム 15. 第11章 貯蓄、投資と金融システム

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>○ ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>○ オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>授業内で指示する</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>グループディスカッションの内容を報告してもらい、それに対して教員がコメントするレスポンスを使用する</p>

実務経験の有無及び活用

備考
<p>本講義は遠隔にて代替授業を行う。代替授業は、「課題学修型」、「同時双方向型」および両者の併用を基本とする。詳しくはポータル配布資料を授業前に確認すること。</p>